

コラム 相談室の窓から

平成29年7月号



ふれあいルームでは、様々な体験活動を行っています。
今年度の第1回の活動はサンドイッチ作りでした。買い物リストを作り、調理手順を考え、互いに役割を分担し
共同で作業をすることは、とてもよい勉強です。日頃お世話になっている方もお招きし、
和やかに会食し、みんなが満面の笑顔になれた一日でした。とっても美味しかったです！

我が子が学校に行かなくなったら？

こんなとき、みなさんはどうされますか？

親として、驚き、心配し、時には叱り飛ばし、なだめすかし、懇願し、場合によっては付き添って登校し、あらゆる手をつくされることでしょう。

そういう親の思いを子供はちゃんとわかっています。苦しみながらもなんとか立ち上がって学校や教室に戻っていける子がほとんどです。長い人生の中のほんの一瞬の小さな挫折だったと思える日がくるでしょう。

でも中には、欠席が長期化し、担任や友人が訪問に来ても部屋の隅に隠れて面会を拒絶し、一日中家に閉じこもってしまい、親も困り果ててしまう場合があります。

心が不安定で繊細な感じやすい子供の場合、自分の不安な気持ちを整理できないまま学校生活を続けていくと、あるとき突然心身のバランスが崩れることがあります。学校の門の前に来るとドキドキする、ふるえる、無表情になる、お腹（頭）が痛くなるなど身体症状が表れるようになってしまい、親としてもお手上げになってしまいます。

これ以上症状を悪化させないためには、やはり早期のうちに状況整理をして、学校や

関係機関と積極的に相談することが大切です。そして、少しでも早く本人に自信を回復させ、肯定的な自己イメージを作ることのできるような援助が重要です。ご家庭だけで抱え込んだりしてしまわないことも大切です。

問題解決のために次のような具体的な手立てが考えられます。

○学校と連携してチームとして支援していきましょう

このように学校に行けなくなってしまった子供であっても、心の中では「学校に行きたい」「学校に行かなければ」と必ず思っています。まずはそのことを信じましょう。

固く閉じられた心を開く鍵は学校にあります。例えば、「合唱祭が近いからぜひあなたの力を借りたい。」と先生から伝えてもらったことがきっかけになったり、部活の顧問や仲間となら会えたりすることもあります。

そのためにも先生や相談員に定期的に訪問してもらい、家庭での様子も伝えることが重要です。保護者の方から学校に出向くことも大切です。

親としては、学校に行けない間も、朝きちんと起こし着替えさせ、決まった時間に食事をさせ、適度な運動も心がけ、夜も当たり前の時間に就寝させることを守りましょう。つまり学校に行っているときの生活リズムをできる限り守らせるのです。そして「学校に行く」とつぶやくいつの日にかに備えておきましょう。

○スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）を活用しましょう

スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）とは、不登校や暴力行為、児童虐待など、問題を抱える児童生徒の置かれた環境への働きかけを行うと共に、家庭訪問等により児童生徒の支援を行う職です。新座市教育委員会では平成27年度より複数のＳＳＷを任用し、新座市教育相談室等で勤務しています。保護者・教職員に対する支援や相談及び情報提供、関係機関とのネットワークの構築、連携及び調整、学校におけるチーム体制の構築及び支援等を行っています。

ご家庭の思いに寄り添いながら学校との連携を図っていく立場として、ＳＳＷをぜひご活用ください。まずは新座市教育相談室にお電話をください。（048-477-4152）